

誓いの言葉

風薫る新緑の季節となり、私を含めた新入生の皆様は、これから始まる学生生活に希望を持ち、楽しみにしておられることと思います。

僭越ではございますが、新入生を代表いたしまして、「誓いの言葉」を述べさせていただきます。

私は現在、宿泊型自立訓練施設にて、精神障害や知的障害を持つ利用者へ、SSTや日常生活能力を向上させるために必要な生活訓練などの支援を提供しています。私が社会福祉分野に入ったきっかけは、4年前、介護福祉士になるために専門学校へ通っていたときに訪れた就職フェアでした。高齢者施設の相談ブースを中心にまわる中で、「精神障害者を支援する仕事」に出会いました。私にとって、とても興味深い分野でした。当時の代表者といろいろな意見を交わす中で、精神障害や知的障害を持つ方の生きづらさを知り、「自分も役に立ちたい」と思い、卒業後は迷うことなく今の職場に飛び込みました。3年が過ぎた今も、その時に感じた気持ちは変わらずに持ち続けています。そして、「自分の支援方法は正しいのか」と疑問を持つと同時に、「ご本人が望む生活が実現できるようにするためには何が必要か」と自問自答する毎日でもあります。

利用者が100人いれば、100通り以上の支援方法が考えられます。利用者一人ひとりが望む生活を手に入れられるよう支援するためには、私自身が、様々な制度や社会資源、相談援助の技術や精神疾患などを基礎から専門的に学び、精神保健福祉についての知識や技術を正しく得なくてはなりません。自分が多くの引き出しを持つことで、いろいろな角度から、その人の真のニーズに応じた支援を、当事者と一緒に試行錯誤しながら提供していくことができるはずです。また、誰かを支援するという事は、自分一人ではできないものではなく、チームでのアプローチが必要です。効果的なチームアプローチを実現するためにも、本学での学びを通じて、多くの職種、様々な職種、人々との協働・連携について有効な支援方法も学んでいきたいと思っています。

精神保健福祉士を目指すことは、私にとって、とても勇気のいるチャレンジです。せっかくやると決めたのなら福祉の名門である日本福祉大学で学びたいと思い、それが今現実のものとなりました。これからの学生生活の中で、スクーリングなどを通じて様々な年齢、経験を持つ方との出会いがあると思います。本学に入学したからこそ得られる出会いを大切に、たくさんの意見交換をすることで、様々な視点を得ることができるのも楽しみの一つです。

いろいろな経験を重ねてきた今だからこそ、その経験を活かせる精神保健福祉士を目指して、大学での学びを積み重ねていきたいと思っています。

以上を、私の誓いの言葉といたします。

2018年5月19日

日本福祉大学 通信教育部

新入生代表 伊藤和絵